

**同窓会会報**  
第30号

昭和56年1月10日  
発行所  
茨城県東茨城郡  
内原町鯉淵5965  
鯉淵学園同窓会  
印刷所  
(有) 双葉軽印刷所

## 会員名簿の 発行決まる

去る八月三十日、常任委員会を開催し、会員名簿の発行について協議いたしました結果、毎年度約百二十名の新会員を迎えているにもかかわらず、昭和五十二年以降発行していないこと、その間の住所変更が多いこと等を理由として、昭和五十六年三月を目途に会員名簿を発行することに決定いたしました。

同窓会活動の出発点は会員名簿にあり期待にこたえることのできる名簿をめざして、発行の準備をすすめておりますが事務局のみ力では、正確を期すことが困難な状況にあります。そこで次のことにつき、会員各位の御協力をお願いする次第です。

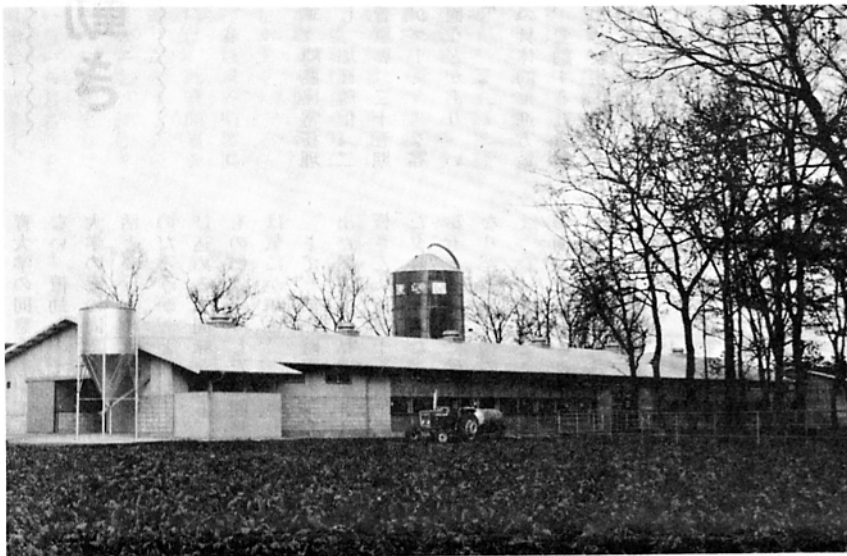
一、滞っている住所変更届（電話も含む）を一月末日までに、本部事務局宛提出する。

二、原簿に記載されている支部別名簿を支部に送付する。支部はその名簿を点

検、変更ある場合は、訂正した上で返送する。尚他支部に転出した会員についても転出先がわかる場合加筆する。

三、期別毎に住所不明者一覧表をつくり、期別代表者（事務局で任意に選出）に送付する。代表者は、同期生と連絡をとり、極力あきらかにした上で返送する。

尚、発行部数一千部、頒価は送料共二千円、二千五百円を予定しておりますので予め御了承下さい。



南西から新乳牛舎を望む



新乳牛舎の内部

## 学園酪農場の施設整備すすむ

昭和五十四年度の現場教室の建設に引き続き、本年度も国庫補助によって、表の通り、乳牛関係施設が整備された。

### 昭和55年度酪農場施設整備

名 称	規 模	金 額
乳牛舎	710㎡	40,842千円
同 設 備		11,700
	（パイプラインミルクカー1式、ボイラー1、ベルトコンベア1、バルククーラー1、パンクリーナー1、自走式飼料攪拌給飼機1、飼料タンク及びスクリュウコンベア各1）	
発酵堆積舎	150	6,058
合 計		58,600

# 支部会・同期会の動き

## 岩手支部会に出席して

六月七日、盛岡市において、岩手支部会が開催された。出席者数約三十名、顔触れは二期から最近の卒業生まで多士済済、中でも農協関係に在職する人達が多かった。

会は諸報告の承認を経てから役員の出に移り、支部長に佐藤隆氏(二期)留任、事務局長に加藤謙次氏(十四期)を選出して幕をとじた。

続いて懇談会、自己紹介の場面では、藤野武氏(四期)、農産経営者協会常務理事、高橋利清氏(九期)江釣子農協理事、菅

原昭一氏(十一期)、金ヶ崎農協常務理事一等の経営者側に対し、加藤謙信(二期)、沢内農協、菅原彰(二十五期)湯田農協等の労組側がユーモラスな雰囲気理解を求める場面などがあり、いかにも趣味的であった。

農業の最先端で営農の具体的な推進方策に取り組む同志からは、変動する社会情勢の中でどう対処するか、安定への道を模索する本音を覗かせたりして、ややもすれば、過去の思い出に走り過ぎる同志会をひきしめていた。

## 岐阜県同窓会交友録

豊洲学園 安藤 義道

去る十一月十四日、岐阜県同窓会が本曾川畔の地蔵郡市大井町の恵那峡で開催され、学園から同郷出生の故郷砂田先生と私がお招きにあずかり、一夜の美酒に酔いました。

私事であるが、恵那は私の故郷である。何回も訪れ、いわばお庭のようなもので

ある。また、当日は私の七十二歳になる老母は学園舎にきていて恵那にはいなかった。にもかかわらず重い腰を上げたのは他でもない、学園の独特な同窓会の雰囲気である。新参者にもあたたかい学園の人間らしさである。自慢ではないが、私は出身の恵那高校の同窓会も、東京教

育大学の同窓会も一度も参加したことがない。他坊なのである。ただ、東京教育大学の夏の同窓会には喜んで出る。養生会というものは何か共通したものがあるのだろうか、とにかく年令差を越えて飛び込める人間味がある。若い私のようなものにはそうした春團氣も出席する際には気にかかる。

さて、第一時間の講義を終えて学園を出た関係上、私達が会に合流できたのは皆さん(総勢十五名)の自己紹介が終った夕食時だった。私のような新参者の挨拶もそこそこに砂田先生の喜望で乾杯となり、豊洲名物の車座井戸端討論会が始まった。きくところによれば、十年ぶりの同窓会ということで皆さんそれぞれになつかしく歓談されていた。私もすぐにとけこませて聞いていろいろと話を受けたまわった。ただ、宴を終ってみてここでひとつだけ物足りないものがあるぞとふとんの中で考えてみたら、豊洲大会であった。私も仕事の関係上農林水産省の方や茨城県の農林水産部の方たちにお会いする機会があったが、学園卒業生の共連者には少なからず驚いていたものだから、今宵も豊洲の観劇になるのかと思いつちようやれ、ときたらどうしようかと内心考えていたのだ。しかし、岐阜県人はそこが控え目というのか、人間が実直というのか、私同様豊洲は苦手なようで私も故郷に不様な顔の裏あけをしなくてすんだ。合同宴会が終わってからも部屋に帰っているいろいろ近況報告があった

が、とにもかくにも話に終始した第一日目であった。

第二日目は、発起人の一人である千藤さん(十五期生)の案内で近くの東野という所にあるシタラメン農家(全国のはとんどの種をここで生産しているときいて私は自分の無学にあせったが)を訪れた。経営主の千藤さんは私の高校の先輩ということで改めて聞いた。次に案内して頂いたのが岐阜県が公社として営む東濃牧場であった。標高七〇〇メートルの山林を切り開いた牧場には乳牛が七〇〇頭いるということで、種付けした牛が農家に渡っていくとのことであった。折から秋の日本晴れで、紅葉と牧草の緑のコントラストに思わず夕ノ息がもれるような光景であった。

恥ずかしい話、この山をおりた麓に生まれ、年に一、二回は帰郷している私であるがはじめてこんな牧場を見た。というわけで、岐阜県同窓会は私にとって故郷再発見の機会になってしまった。こんな再発見の機会も学園の同窓会だから与えてくれたと今は感謝の念に耐えません。最後になってしまいました。松水さん(三期生)、土岐(片田)さん(二期生)、松水さん(三期生)、土岐(片田)さん(二期生)そして前述の千藤さんをはじめとする岐阜県同窓会の皆さまどうもありがとうございました。

皆さんのご健勝と会の一層の発展をお祈り申しあげます。

1980・11・25

## 同期会の模範 一期会

九月十四・十五の両日、善光寺、上山田温泉において約七十五名が参集し、第三回長野大会が開催された。

大会のプログラムは盛り沢山で、一、物故者を偲ぶ会（善光寺）、二、定期総会（上山田温泉）、三、懇親会（同上）四、黒四ダム行楽旅行が実施された。

一期会は、卒業三十年を機に昭和五十

## 同窓の「三期会」開催される

幹事代表 奥村勇資

鯉淵の学舎を築立ってより三十二年を経た三期生は、それぞれの分野において各地で活躍しておりますが、卒業三十周年と同窓会館竣工を記念して鯉淵の地において一堂に会し、昔の釜の飯を食べべ

ら過し日を語り合い励まし合う機会をつくろうではないかと、有志相集うべく数ヶ月を要し、指導員養成所入所時から高等農事講習所鑑（卒業）までの諸兄に可能な限りの連絡をとり合い、去る十月十一日、同窓会館において三期会が催されました。

会合には、北海道、九州を含め三八名が参加され、前日の体育の日、マナーの良い在学生の学園の文化祭がおこなわれた。夕刻から、学園長をはじめ当時の思

年鯉淵で第一回大会、五十三年に広島で第三回大会、本年九月に長野での第三回大会を開催しており、会誌も第四号を発行するなど、活動も軌道にのっている。

当面の事業計画として、一、会誌の発行（全員の個人写真を掲載したアルバム的なもの）、二、第四回みちのく大会の開催、三、中国訪問旅行をあげている。

師の会合がおこなわれていたこともあり、来賓として諸先生方のご参加を得て盛大に開催されました。

開催後、今は亡き同僚十名のご冥福を祈る黙禱をおこない、今会合の経過報告に続いて吉川学園長をはじめ恩師の方々の来賓祝辞、近先生の学園現況報告、和田同窓会会長の報告があり、同窓会館周辺の記念植樹の為の寄贈を北海道在住の佐々木、伊藤両氏が代表して学園長に手渡された。引続いて、三期会の今後の運営について同期生のみで諸々打合せがおこなわれ、夕刻から再び諸先生方のご出席を得て懇親会に入り、来賓のご芳志と祝辞をいただき、恩師の余興や寮歌・思出の歌の合唱となごやかなムードの中



(3期会記念写真)

で深夜まで懇談は続けられた。飯島氏の  
名詞会をはじめ協力いただいた諸兄に  
感謝いたしたい。

お陰様で二巻集の諸先生方はじめ同期  
の諸兄にはことのはか喜んでいただき意  
況のうちに無事閉会できたことに對し、  
世話人一同ホッとすると共にご賛同ご協  
力いただいた諸兄に厚くお礼申し上げる  
次第です。

三期会の今後の運営については、名称  
は「三期会」とする。会員は指導員養成  
所入所から高等農事講習所履修までの者で  
構成する。開催の年次及び時期は来年度の  
幹事会に一任されるもの、来年度の幹事  
会において改めて検討する。総会の開催地  
は会員の負担均等を図るよう配慮する。  
幹事会には、在京として上野義忠・岡川  
五月・川嶋佳一・和田文雄・奥村勇資の  
五氏の外、各地区単位にも幹事を選出の  
うに相互に協力体制を整えること、等が  
決議されました。  
特に、今回事情止むなく参集できなかつた諸兄の二巻集も得た上で最終的に今

## 二十二期生会

去る十一月二十三日、内原町湯泉荘に  
おいて二十二期会が開かれた。今回の集  
りは、卒業十五周年同期会の準備会で全  
国の同期生に呼びかけたら、予想を上回  
り二十名の集りになったという。二十二期  
生は、昭和四十二年の卒業であるから昭和

後の運営を考慮することとなり、今回は準備  
会的な会合として来年度改めて三期会の  
総会を開催するとの決定には世話人一同  
嬉しい悲鳴を上げている次第。これら  
のご決定やご意向をうけて京幹事としま  
しては、この二報告をかねこの機会に、  
次の事項のご推進方を三期生にお願ひし  
在京幹事までご連絡いただきたい。

〔一〕五六年一月末までに地区又は県単位  
に二相話願ひ地区幹事を選出願ひた  
い。

〔二〕五六年の会合時期十月の取決めを更  
更し、五六年三月二十日から九月十  
五日まで神戸博ポートピアが開催  
されますので八月頃神戸周辺で開催  
することについて。

以上が過日の三期会のご報告でありま  
すが本誌をおかりし連絡事項までとは恐  
縮です。

来筆早ら、諸先生をはじめ各期の同志  
諸兄並びに在学諸兄のますく二健勝  
とご活躍を祈ってやみません。

和五十七年頃には、夜を徹しての相談が  
実のつて、意義ある集会が開かれるに違  
いない。

懇親会の席上、世話人の西村勝夫氏  
〔茨城・専門技術員〕が立って、「学園で  
は、現在も文藝、萌芽が発行されていま  
すか。『実』は二十二期生が創刊したんで  
すよ。『萌芽』の名付親は、本日出席され  
た谷岡さんです。」と紹介され、閉せずし

て拍手がわいた。

谷岡妙子さん、彼女は鳥取県東伯町に  
住まいし、芝二〇〇アール、アドウ二五  
アール、西風五〇アール、スイトコーン  
二〇アール、里芋四〇アール、その他一  
五アールの計三三〇アールを経営する農  
家の主婦として頑張っている。

農村生活科二十二期生は、卒業と同時に  
に回覧ノートを作成、それが実のつて会

誌「伝書鳩」となり、卒業十三年の間に  
六回の紙上クラス会を開いているという。  
出席された人達のうち八名が女子、し  
かも、子供連れであつてみれば、成程と  
頷けるのである。  
突然の招待を受けて出席したが、会が  
同窓会の発展を思わせ、才がすがしい気  
分で会を辞した。

〔事務局 高橋〕

## 第三回

### 同期生会を開催して

三十一期・酪農場 山本英治

我々、三十一期生は十一月一、二日、  
鯉沼学園同窓会館に於いて、同期生会を  
開催いたしました。全国各地から、二十  
五名程が集まり、有意義な一時を過ごす  
ことができました。卒業して四年にもな  
ると、社会人として、立派に活躍されて  
いることが、各人の近況報告等を通じて  
いると、強く伝わってまいりました。今  
回で我々は、第三回目の同期生会を開催  
したわけですが、私自身大変感激したこ  
とがあります。それは奥さん、子供、同  
伴で出席された白岩君（福島）、郡司君  
（茨城）、二組の家族が出席してくれた  
ことです。

卒業生にとつて、鯉沼の地とは第二の  
故郷なのである。その心の故郷である鯉

沼学園を奥さん、子供に紹介することは、  
意義のあるとでもすばらしいことではな  
いでしょうか。学園には、同窓会の方に  
より、立派な同窓会館があり、宿泊施設  
も完備しておりますので卒業生の皆様、  
第二の故郷、鯉沼の地に来て、青春時代  
を思い出し、家族に紹介してみても、い  
かがでしょうか。

我々、次回の開催の時には、子供連れで  
集まろうではないか？  
三十一期の皆さん、  
健康に充分注意して、頑張ろう！



# 御挨拶



丸川 慎 三

鯉湖学園同窓会報の誌面をお借りして  
ごあいさつ申し上げます。私は昭和二十  
二年から三十年余り試験研究機関で蔬菜  
栽培における技術開発にたずさわって参  
りましたが、はからずも学園からの招き  
により、昨年五月から岡千里先生の後任  
として、園芸コースの主任の仕事を担当  
させて頂き、野菜の講義を受け持つ  
ております。

私にとりまして、教育は全く新しい仕  
事であり、不安の多いことであります  
が、幸い櫻井先生や佐藤先生を始めとし  
て諸先生のご援助により人生の一大転機  
を乗り越え、将来方向を見出すことがで  
きましたことに対して心から感謝いたし  
ておる次第です。

この機会に私がつたってきた道と、学  
園における教育との関係について述べさ  
せていただきたいと思います。

私は、昭和二十一年に千葉農専を卒業

と同時に神奈川県二宮町の農林省園芸試  
験場種育苗成地（現在の神奈川県園芸試  
験場）に入りました。ここは地方の試験  
研究機関で働く人に対する基礎訓練を施  
すところで、私の担当した仕事は渡辺誠  
三先生の助手として、キャベツ品種生熟  
試験が主なものでした。在学中は終戦前  
の学徒動員などであちこち引きまわされ  
たため、ろくな勉強や実習をしていなか  
ったので、先生から大いにしぼられまし  
た。野菜に関する試験の基礎を学ぶこ  
とができました。

種育苗成地で一年半経過した頃、招か  
れて福井県農事試験場に勤務することに  
なりました。ここは太平洋岸と異なって  
冬期間雪の多いことが特徴とされており  
ます。私は、生まれが新潟県（正確にい  
うと加茂市）であるので雪には驚きませ  
んでしたが、積雪期間中は野菜は栽培が  
困難であり、愛知県などの太平洋岸から  
の移入によってまかなわざるを得ないの  
が実状でありました。たまたまある年に  
根雪が早かったため、収穫できなかつた  
キャベツを翌春掘り起こしたところが、  
ほとんど傷んでいなかったのを見て、キ  
ャベツの雪中（または雪下）栽培を考え、  
種育苗成地で育種した品種を用いて新し

い技術体系を確立いたしました。この雪  
中栽培はその後北陸地方から東北地方に  
も普及して、積雪地帯の特産として発展  
しております。

その他福井県では、同地方の特産であ  
った時無ダイコンの採種法改善に関する  
試験を行なって、本場京都府に劣らない  
優れた品質の種子を生産することに成功  
いたしました。

福井県で十年経過した頃、茨城県に招  
かれまして、昨年五月に学園に参るまで  
の二十年余りの期間を、農業試験場・園芸  
試験場で勤務させて頂きました。

この期間での仕事としては、ウリ類蔬  
菜（スイカ・キュウリ・メロン）の台木  
としてのカボチャに関する研究が主で、  
特にそのつぎ木親和性について追求いた  
しました。茨城県においては、つる割病  
の発生回避と耐低温性を付与するため、  
ウリ類蔬菜ではカボチャを台木としたつ  
ぎ木栽培が各地で始められましたが、定  
植後生育に異常をきたし、はなはだしいと  
枯死することさえあって、つぎ木栽培が  
困難となりました。私は、園芸試験場を業  
部の方々とこの問題に取り組み、つぎ木  
親和性を有する特定の台木品種を作物の  
種類ごとに選定して解決いたしました。  
現在では茨城県内は勿論、全国の産地に  
おいてウリ類蔬菜でカボチャを台木とし  
たつぎ木栽培がみられないところはない  
位、広く普及するに至っております。

優良台木を選定した後、選定に際して  
最も問題となったつぎ木親和性に関する

基礎的問題を追求し、台木選定の問題と  
合わせてまとめたのが論文として認めら  
れ、五十三年に学位を取得することがで  
きました。試験を始めて十七年の歳月を  
要しました。この間、杉山直儀先生の格  
別のご指導を受けました。

その他スイカやメロンに対する着果促  
進剤として、ベンジルアデニンを開発す  
ることに成功いたしました。いずれ近く  
農業登録がなされ、普及実用化するもの  
と思われま。

さて、長年蔬菜の技術開発にたずさわ  
って痛感いたしましたことは、新しく開  
発された技術を受け入れてくれる生産者  
や、正しく伝えてくれる技術が多く必要  
であるということです。いくら優れた技  
術であっても生産者が早く使いこなし、  
実践に移してくれなければ絵に描いた餅  
と同然です。

私のこれからの仕事は、新しい園芸技  
術を実践し、普及していただける技術の後継  
者育成が中心であり、生きがいであると  
存じております。

全国の鯉湖学園の同窓会員の皆様、よ  
ろしくご鞭撻下さいますようお願い申し  
上げます。

ご来園の折には、是非教室へお立寄り  
下さいますようお願いしております。

# 西山寿氏(宮崎四期)

## 西日本文化賞に輝く

われらの同窓である西山寿氏が代表する水稲育種グループは、宮崎県農業協同組合中央会会長の推薦により、第三十九回西日本文化賞「社会文化部門」を受賞された。西日本文化賞は、西日本新聞社が主催し、西日本文化の確立、西日本文化の向上を念願し、文化の進歩に貢献した人達を顕彰、業績をたたえ、一層の精進を祈る」として、昭和十五年に設け、昭和五十五年で三十九回を迎えた、輝やかしい賞である。

変化してきており、それに対応する優良新品種の育成が待望されている。こうした中において、西山氏の代表する育種グループは、ミナミニシキ、コガネマサリ、シンレイ、ニシキホマンの良質で食味のよい品種を次々に開発、これらの品種が九州各県の奨励品種に指定され、作付面積も急増、それが四国各県にもおよんで西日本稲作農業に多大の貢献を果している」としている。

西山氏は、昭和二十四年農林省佐賀農事改良実験所水稲育種部をふりだしに、昭和二十六年農林省九州農試作物第一研究室(水稲育種)、昭和五十年には、現古川

### 育成品種の特性概要

品種名	育種年	育種地	育種者	特性	栽培地	育種者	育種年	育種地	育種者	特性	栽培地
コガネマサリ	昭和15年	宮崎	西山寿	早熟、高収、良質	宮崎	西山寿	昭和15年	宮崎	西山寿	早熟、高収、良質	宮崎
シンレイ	昭和15年	宮崎	西山寿	早熟、高収、良質	宮崎	西山寿	昭和15年	宮崎	西山寿	早熟、高収、良質	宮崎
ニシキホマン	昭和15年	宮崎	西山寿	早熟、高収、良質	宮崎	西山寿	昭和15年	宮崎	西山寿	早熟、高収、良質	宮崎
ミナミニシキ	昭和15年	宮崎	西山寿	早熟、高収、良質	宮崎	西山寿	昭和15年	宮崎	西山寿	早熟、高収、良質	宮崎

### 昭和54年度 九州地域の主要品種作付状況

品種名	作付面積(ha)	作付割合(%)
コガネマサリ	49,513	27.5
シンレイ	46,019	26.4
ニシキホマン	22,457	12.7
ミナミニシキ	26,714	15.1
その他	11,103	6.4
計	171,806	100.0

## 昭和五十六年度

### 学生募集 協力依頼について

学園長(当時九州農試場長)の勧めもあって、宮崎県総合農業試験場育種科(特別研究員兼育種科長)に赴任され、今日まで水稲育種一筋に努力してこられた。現在ま

でに直接関与した育成品種は、二十一品種にものぼっているという。われわれとしても同窓に氏のおられることを誇りにもち、心からの声援をおくろうではないか。

教務課長 西村 典夫

明けましておめでとうございます。日頃ご無沙汰しておりますが、皆様には益益ご健勝のこと、存じます。お陰様で私も一同、元氣いっぱい頑張っております。

ご多用のところ申訳ありませんが、重ねて学生募集に格別のご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、寒気厳しい折でございますので、一そうのご自愛をお祈り致します。 敬具 (56・1・8)

### 最近の学生数

( )内は女子・11月30日現在

専攻科	本科		
	1年生	2年生	3年生
畜産	54(1)	46(5)	54(1)
園芸	37(2)	40(2)	30(2)
生活	20(20)	31(31)	29(29)
合計	111(23)	117(38)	113(32)
専攻科	2		
総数	0		
	三四三(九三)名		

さて、毎年ご支援、ご協力をいたしております「学生募集」、一月十日から願書の受付を開始致します。近年は少しずつ出願者数も増加し、入学者数も定員確保が出来るようになって参りました。但し生活栄養科は減少の傾向であります。しかし、益々厳しい日本農業の諸条件は、青年諸君の希望を曇らせ、農業にかける意欲まで殺ぐやに感ぜられる昨今です。このような時こそ、全国各地から一人でも多くの、学習意欲に燃えた、健康で優秀な志願者をご紹介、ご推薦下さるようお願い申し上げます。

今年度から、園芸コースは花卉部門を、畜産コースは養豚部門を拡充して、学園教育の成果を高めようと努力しております。

# 就職情報についてお願い

学生生活課 坪野 敏 美

来春卒業予定の就職希望者は、農業をめぐる厳しい諸情勢と冷夏による不作のもとで、大変苦勞しております。

学園では、二学年の始めに就職希望を調査し、それをもとに情報収集、募集要項の取寄せ、学生の指導および推せん等を行なっております。

今春学生生活課でまとめた来春卒業予定者一四名の就職希望は次の通りです

- 農業 自 営 一一・五%
- 農協連合会 一四・一
- 市町村農協 二五・七
- 農業(生活)改良普及員 一二・四
- その他県職 一八・六
- 市町村役場 七・一
- その他 一〇・六

だが、実際仕事を進めてみると、農業関係採用予定人数は非常に少なく、しかも、農業改良普及員や農協連合会は四年制大卒者に限定するところが多く、短大卒者に門戸を開いてくれたところでは全くどのような競争率でした。

十一月末現在、県職・農協連合会の合格は決まり、市町村の役場・農協の合格発表も半数以上終了しましたが、就職の決まった者は農業自営者を含め三〇%にのみならず、例年に比べて低調です。

例年、卒業時までには七〇%近く決まり、そう悲観することはないとも思っておりますが、折角三ヶ年間頑張った連中ですので、卒業後はできるだけ働きたいのある職場で頑張つてほしいと念じております。学園の学生は、御承知の通り全国各地から来ており、最近では長男・長女が多いため地元就職指向が強く、農村では来年度の事業見通しとも関連して、年が明けてから職員を募集するところも少なくないと聞いております。学園のようにな小さな組織では、全国に及ぶ情報収集はとてむずかしく、学生の父兄を通じて網を張っておりますが、卒業生諸兄姉のお力添えも是非お願い致したいと存じます。役場・市役所・農協・その他農業関連機関・農業関連会社の職員、当面は臨時でもけっこうです。就職情報を耳にされましたら、学生生活課まで御一報下さいませようお願い致します。

最後にになりましたが、春以来各県農協連在職同窓生の皆さんには、就職関連資料を送付いただき誠にありがとうございました。また、就職相談で学生がおじやまし、適切な指導を下さった同窓生もたくさんおられました。いちいちお名前を挙げませんが、厚くお礼申し上げます。

## 就 業 状 況 調 査

(1期～34期)  
昭和55年8月30日調

職 種 別 期 別	農 業 自 営	団 体 職 員			公 務 員				教 育 機 関	民 間 会 社	そ の 他	合 計
		農協関係	その他	小 計	普及員	試験研究機関	その他	小 計				
1期～21期	406	458	77	535	254	75	255	584	69	160	64	1,818
22期	36	42		42	10	3	3	16	3	8	9	114
23期	40	68		68	16	2	3	21	2	10	9	150
24期	35	61		61	18		4	22	5	7	12	142
25期	37	87		87	8	4	9	21	2	9	8	164
26期	32	68		68	6	3	8	17	4	14	4	139
27期	39	27	3	30	3	1	14	18	4	8	13	112
28期	19	21	9	30	7	2	10	19		9	9	86
29期	25	20	1	21	4	1	8	13	2	10	12	83
30期	36	31	2	33		1	1	2		8	12	91
31期	31	20	6	26	2	1	7	10	3	10	11	91
32期	38	23	3	26	4		13	17	1	14	15	111
33期	47	26	4	30	2	1	8	11	1	13	19	121
34期	33	28	9	37	2		3	5	2	12	26	115
合 計	854 (25.6)	980 (29.4)	114 (3.4)	1,094 (32.8)	336 (10.1)	94 (2.8)	346 (10.4)	776 (23.3)	98 (2.9)	292 (8.7)	223 (6.7)	3,337 (100.0)

# 鯉湖学報(第三号)発刊さる

待望久しかった鯉湖学報第三号が、九月一日発刊されました。本会で創刊号を発刊してから約十年、第二号から学園にこの事業を移譲したものの、その後の協力体制不十分も手伝って、年一回の当初計画が今日の結果となっております。幸い古川学園長の熱意と指導力によって第三号を手にすることが出来ました。古川学園長は、年一回の発刊を必ず実行すると話されており、本会としても、それを支える全体的な協力が強く望まれます。今はじき前学園長秋浜浩三先生は鯉湖学報の発刊にあたっての中で、全国で活躍する卒業生をあげ、「学報がこれらの人々の協力によって出版されるならば——中略——現代農業にとっては、けだし、これ程の説得を持つものはあるまいと感ずるのであります。」と述べられ、鯉湖学

## 鯉湖学報 目次

ウリ類蔬菜の台木としてのカボチャに関する研究 丸川 慎三……………1  
特にそのつき木親和性について……………2  
牛乳中の細胞群に関する衛生学的研究……………3  
——牛乳の真価高揚のために——……………4  
農業後継者の学歴取得とその背景……………24  
安藤 義道……………24  
園芸農場の歩み……………36  
櫻井 昭利……………36  
鯉湖学園における実習教育(一)……………60  
高橋 隆三……………60  
農村社会の変貌と農村文化の変貌……………70  
小林 昌平……………70  
鞍田純著「農村生活総論」を読んで……………84  
川井 光、入江三弥子、涌井みよ子……………84

## 同窓会館の利用について

昭和五十三年四月に開館してから、二年半を経過した同窓会館は、着実にその機能を發揮しております。職員との親睦会場、学生と職員の集會、外来講師の宿泊等の利用を除くと、同窓生の利用が主体になってゐることは勿論です。去る三月

報に多大の期待を寄せ、本会の協力を信じて学報を引き受けられました。全国に活躍する皆さん、この事業を發展させるために、御投稿または御投稿者の御推薦をお願いする次第です。  
第三号の発行部数五〇〇部(本会配布部数約二〇〇)頒価は送料共一、〇〇〇円です。希望者は事務局宛申し込んで下さい。  
尚、第三号の掲載内容は、目次の通りです。

期生会やその打合せ会など、土日にかけて毎週利用され、個人的利用者に大変ご迷惑をおかけしている状態です。

以上のような状況ですので、同窓会館の利用、特に同期生会等会館を貸切り利用される場合には、二ヶ月前位に事務局に申し込んで下さい。また、同窓会館建設の趣旨から、個人的利用も重視したいと考えますので遠慮なく申込んで下さい。  
◎電話〇一九三九九(一八(富田まで))

## 事務局からお願い

一、会費納入について  
会費発行の都度、会費納入のお願いを致しておりますが、今回は特に、郵便料金の値上り、名簿発行を前にし、基本金の減少(同窓会館建設に流用)から運用資金にも欠き、台所は苦しくなることが予想されますので、会費未納の方は

## 新刊紹介

### 石橋幸雄著 鯉湖学園

#### 戦後農業の軌跡を刻む

ご承知のように、石橋幸雄先生は昭和二十一年、全国農業調査部長から鯉湖学園教授としてご着任、爾來約三十年、農業経営の講義を担当されるとともに、次々と学園の教育、運営の要職を兼ねられ、昭和四十二年には副学園長として窮地の学園再建にご尽力下さいました。また、学究としての先生も周知のことで、農学博士の学位を授与され、著書・論文も数多くございます。昭和四八年、学園ご退職の後も、名誉教授として特別講義をお引受下さり、先年はヨーロッパ、次いでソビエト、アメリカの視察に参られました。表記の著書は鯉湖学園の三十年史、皆さんは勿論、一般の方にも是非一読をお勧め下さるようご紹介致します。書店では入手できませんので、ご注文は早速同窓会事務局まで。(事務局)

是非納入下さるようお願い申し上げます。

#### 二、事務局への御意見を

同窓会の運営について、不行き届きの点が多々あることと存じます。遠慮なく御意見を寄せ下さい。

#### 学園人事往來

採用  
佐藤和夫 55・4・1付 酪農場  
馬場幸治 55・9・1付 園芸農場